

Economic Indicators

発表日: 2023年5月26日(金)

主要経済指標予定(2023年5月29日~6月2日)

(株)第一生命経済研究所 経済調査部
日本経済短期チーム (TEL: 03-5221-4525)

(5月29日~6月2日の主なイベント、指標予定)

	指標名	当社予測	市場予測	市場予測レンジ	前回結果
5月29日 (月)					
5月30日 (火)	8:30 4月労働力調査 完全失業率	2.7%	2.7%	2.4%~2.9%	2.8%
	8:30 4月一般職業紹介状況 有効求人倍率	1.32倍	1.32倍	1.31倍~1.36倍	1.32倍
5月31日 (水)	8:30 3月サービス産業動向調査 売上高(前年比)	—	—	—	+6.8%
	8:50 4月商業動態統計・速報 小売業販売額(前年比)	+7.2%	+7.0%	+5.4%~+8.4%	+6.9%
	8:50 4月鉱工業指数・速報 生産(前月比)	+1.2%	+1.5%	0.0%~+2.3%	+1.1%
	14:00 4月住宅着工統計 新設住宅着工戸数(前年比) (季調値年率)	▲0.1% 86.8万戸	▲0.8% —	▲5.7%~+4.0% —	▲3.2% 87.7万戸
	14:00 4月消費動向調査 消費者態度指数(一般世帯、季調値)	—	—	—	33.9
	6月1日 (木)	8:50 1-3月期法人企業統計 売上高(前年比) 経常利益(前年比) 設備投資(除ソフトウェア)(前年比)	— — —	— — —	— — —
6月1日 (木)	14:00 4月新車販売台数 乗用車(前年比) 軽乗用車(前年比)	— — —	— — —	— — —	+25.8% +6.3%
	6月2日 (金)	8:50 4月マネタリーベース (前年比)	—	—	—

4月完全失業率／有効求人倍率 当社予想：2.7％／1.32倍 中央値：2.7％／1.32倍

雇用調整助成金の特例措置の終了など、コロナ禍で実施された各種支援措置が縮小されていることが足元の失業率の押し上げ要因になっているとみられる。一方、ウィズコロナの一段の進展による個人消費の持ち直しやインバウンド需要の拡大により人手不足感の強まりもみられていることから、失業率は前月から低下すると予想。

(シニアエグゼクティブエコノミスト：新家 義貴)

4月鉱工業生産指数 当社予想：前月比＋1.2％ 中央値：同＋1.5％

23年4月の鉱工業生産は、前月比＋1.2％と3か月連続の増加を予想する。供給制約の緩和から自動車生産の回復が続いたとみる。先行きについては、海外経済の減速による輸出の弱まりで下押し圧力は大きく、鉱工業生産は停滞感の強い状況が続くだろう。

(副主任エコノミスト：大柴 千智)

4月小売業販売額 当社予想：前年比＋7.2％ 中央値：同＋7.0％

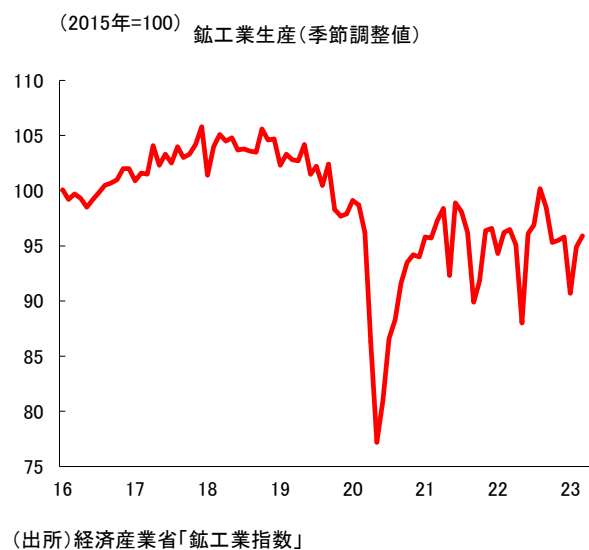
新型コロナウイルス感染への警戒感が和らいでいることから、個人消費は持ち直しの動きとなっている。供給制約の緩和による自動車販売の増加といった要因も加わり、4月の個人消費も回復傾向が続いた可能性が高い。

(シニアエグゼクティブエコノミスト：新家 義貴)

図表1



図表2



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。